

指定管理業務点検・評価シート（令和2年度業務）

令和3年7月30日

施設名	鳥取県立倉吉未来中心	所在地	倉吉市駄経寺町212-5
施設所管課名	文化政策課	連絡先	0857-26-7839
指定管理者名	公益財団法人鳥取県文化振興財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日

1 施設の概要

設置目的	人と人との交流を促進し、地域の活性化を図るため。
設置年月日	平成13年4月21日
施設内容	○敷地面積：21,117.63㎡ ○建物面積：16,401.81㎡ ○施設内容：大ホール（最大1,503席）、小ホール（最大310席）、第1～第10楽屋、リハーサル室、第1、第2練習室、セミナールーム1～9、アトリウム、団体事務局サロンほか
利用料金	http://cms.sanin.jp/p/miraichushin/2/3/
開館時間	午前9時～午後10時
休館日	○毎月第1、3、5月曜日（当該月曜日が休祝日の場合は、その翌日の休祝日でない日） ○年末年始（12月29日から1月3日まで） ○施設・設備の保守点検を行う日

2 指定管理者が行う業務

委託業務の内容	①施設設備の保守管理及び修繕 ②施設の保安警備、清掃等 ③管理施設の利用の許可、施設利用料の徴収等に関する業務 ④その他施設の管理に必要な業務 ⑤倉吉未来中心を利用した文化芸術の振興に関する業務 ⑥地域との連携
---------	--

3 施設の管理体制

（令和3年3月1日現在）

管理体制	正職員：16人、非常勤職員：3人、臨時的任用職員：1人〔計20人〕 館長（正職員1） └── 総務部〔事務・施設利用・文化事業実施〕 （正職員8、非常勤3、臨時職員1） ※県民文化会館駐在職員含む（臨時職員1） └── 技術管理部〔舞台技術・施設管理〕 （正職員8）
------	---

4 施設の利用状況

利用者数（人）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2年度	2,384	967	3,708	5,033	3,931	6,230	10,923	9,388	7,724	2,848	3,695	5,258	62,089
元年度	16,740	12,310	17,810	11,298	23,974	14,012	21,272	22,288	11,963	9,688	13,761	4,276	179,392	
増減	△14,356	△11,343	△14,102	△6,265	△20,043	△7,782	△10,349	△12,900	△4,239	△6,840	△10,066	982	△117,303	

利用料金収入（千円）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2年度	3,228	1,074	367	2,616	945	1,636	2,114	3,804	2,981	2,560	719	764	22,808
元年度	6,568	3,504	3,478	3,472	5,513	3,340	3,678	2,849	3,280	2,158	2,056	1,647	41,543	
増減	△3,340	△2,430	△3,111	△856	△4,568	△1,704	△1,564	955	△299	402	△1,337	△883	△18,735	

5 収支の状況

（単位：千円）

区分		2年度	元年度	増減	
収入	事業収入	利用料金収入	22,808	41,543	△18,735
		小計	22,808	41,543	△18,735
	事業外収入	県委託料	128,508	(122,706)	1,169
		倉吉市委託料	55,826	(53,584)	507
		手数料・使用料収入		1,941	1,941
		雑収入等		6,712	6,712
	小計	192,987	188,862	4,125	
	計	215,795	230,405	△14,610	
支出	人件費	84,395	83,145	1,250	
	管理運営費	123,356	140,904	△17,548	
	計	207,751	224,049	△16,298	
収支差額		8,044	6,356	△1,688	

6 労働条件等

確認項目		状況				備考
		正職員	非常勤職員 (無期労働契約)	非常勤職員 (事務)	臨時職員	
雇用契約 ・ 労使協定	労働条件の書面による提示	就業規則、 労働条件通知書	就業規則、 労働条件通知書	就業規則、 労働条件通知書	就業規則、 労働条件通知書	※書面の名称を記入
	就業規則の作成状況	作成・届出済	作成・届出済	作成・届出済	作成・届出済	※常時10人以上の労働者を雇用する場合は作成・届出が必要
	労使協定の締結状況	時間外労働・休日労働に関する協定書				※労働基準監督署長への届出が必要な協定の有無
労働時間	所定労働時間	8時間				※幅がある場合は上限、下限を記入
	時間管理の手法	自己申告、使用者の現認				※タイムカード、ICカード、自己申告、使用者の現認などの別を記入
	休暇、休日の状況	・概ね4週間当たり8日間の週休日 ・国民の祝日に関する法律に規定する休日数（土曜日と重複する日を除く） ・年末年始（12/29～1/3）				※幅がある場合は上限、下限を記入
		・年次有給休暇 ・その他の休暇 [有給] 病欠休暇、特別休暇、子の看護休暇 [無給] 育児・介護休暇、海外随伴休暇	・年次有給休暇 ・その他の休暇 [有給] 特別休暇、子の看護休暇 [無給] 育児・介護休暇	・年次有給休暇 ・その他の休暇 [有給] 特別休暇、子の看護休暇 [無給] 育児・介護休暇	・年次有給休暇 ・その他の休暇 [有給] なし [無給] 館長が認めるとき	
給与	給与金額	294千円	181千円	156千円	163千円	※平均月額を記入
	最低賃金との比較	適	適	適	適	※適否を記入
	支払い遅延等の有無	無	無	無	無	※有無を記入
安全衛生	一般健康診断の実施	年1回				
	産業医の選任	選任の要否：否	選任状況：なし			※規模の要件あり
	安全管理者の選任	選任の要否：否	選任状況：なし			※業種・規模の要件あり
	衛生管理者の選任	選任の要否：否	選任状況：なし			※規模の要件あり
	安全衛生推進者（衛生推進者）の選任	選任の要否：要	選任状況：総務課担当職員より選任			※業種・規模の要件あり

7 サービスの向上に向けた取組み

区 分	取 組 み 内 容
利用申込 利用促進	<p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、施設運営における様々な制約や工夫が求められる中、利用者の安全安心に向けた環境整備と高い満足度に資するサービス提供を通じ、施設の利用促進に取り組んだ。</p> <p>＜具体的な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内の文化芸術活動推進と大ホールの利用促進を図るため、大ホール割引プランを継続して実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・大ホール直前割引（利用実績：5件） ・大ホール4・5月平日割引プラン（利用実績：0件） ○その他、利用促進の取組を継続して実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホールを文化・芸術事業のために利用した過去の利用者に対する抽選申込受付の案内発送。 ・キャンセルによるホール空き情報をHPやSNSを活用し随時発信。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○HP等を通じ、設備の更新状況やイベントのお知らせ等を情報発信した。 ○HPには施設の基本情報や空き状況の他、図面データや利用パターン、よくある御質問等の項目を設け、閲覧者がより具体的な利用イメージを検討しやすいよう、発信する情報の内容を工夫した。 ○書誌媒体では、鳥取県文化振興財団情報誌「アルテ」や施設イベント情報誌等を活用し、幅広い世代への周知、会員・関係機関、その他継続利用者等への周知強化等、メリハリを付けた効果的な情報発信に取り組んだ。
新たなサービス	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン方式による会議や研修会等の開催ニーズの高まりを踏まえ、利用者の利便性向上に取り組んだ。 <p>（新たなサービス・取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナールームにおけるプロジェクター・スクリーンの常設（一部有料サービス） ・インターネット接続テストを希望する利用者への柔軟な対応 ・アトリウムにおける移動式音響反射板の設置サービス（有料サービス）の開始 <p>〔参考：近年に開始したサービス〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の動線に合わせた場所にユニバーサルデザインを意識した施設案内表示の設置。 ・アトリウムに「中部1市4町の文化・観光情報コーナー」を新設し、来館者が中部地区の情報を収集できる場所を提供。 ・セミナールーム2の壁にスクリーンを常設。（施設利用者は無料） ・概ね全館でのWi-Fi環境整備。 ・利用後のゴミの持ち帰りが困難な利用者のために開始した有料の「ゴミ回収サービス」の継続。 ・プロジェクターを使用した施設利用の増加を受けて、移動式プロジェクター（貸出用）の増設。 ・施設を利用した様々な活動の情報発信の場として、アトリウムの「みんなの活動掲示板」の設置。 ・衛生環境改善のため全ての女性用トイレにトイレシートクリーナーを設置。 ・利用者の多様な嗜好に対応するため、アイスクリームの自動販売機の設置。
アンケート の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内に設置したメッセージBOX、施設利用者へのアンケート調査（施設利用完了報告書）を通じ、一般来館者、施設利用者の意見を求めた。
運営懇談会 の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の賑わい創出のための事業等への取組や、施設利用のサービス向上のための意見を聴くため、運営懇談会を実施した。
イベント 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ○施設利用者や文化活動者等からのイベント相談（企画立案・広報・運営・舞台技術、新型コロナ対策等）に応じた。（相談実績：3件）
舞台技術支援・ 講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○県内の舞台技術者の人材育成及び創作活動の普及啓発による文化振興促進のため、文化活動者、教育機関、公立文化施設等に対して、舞台技術及び舞台関連設備等について相談、助言、情報提供、指導等を実施した。（教育機関・公立文化施設4件、文化団体・一般県民2件：計6件）

8 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内にメッセージBOXを設置 ・施設利用完了報告書に利用者の意見を求める欄を追加 ・電話、FAX、Eメールによる意見等の受付 ・運営懇談会の設置・開催 ・県への「県民の声」による意見受付
------------	---

利用者からの苦情・要望	対応状況
(リハーサル室) 湿気があり、床がベトベトであった。 ターンが出来ない。	空調設備の不具合箇所の修理を行った。
(セミナールーム4) スクリーンが落ちてくる。	すぐに移動式スクリーンの点検を行い対処した。
(セミナールーム3) 入口付近のライトが切れかけなのか、よく“ジジ”となっていた。	早速点検を行い調整した。
(リハーサル室) ピアノの椅子のギシギシ音がうるさい。 録音に入ってしまうため、改善していただきたい。	早速点検を行い調整した。
(セミナールーム3、他) ・一部の窓が壊れているのか開かない。 ・窓を開け通風したが、閉めた際にロックできない窓があった。 ・窓の開け方をもう少し分かりやすく説明書きなりで説明してほしい	早速点検を行い調整した。窓際に開閉手順などを記した案内を設置した。

利用者からの積極的な評価
<p>〈職員の対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に教えていただいた。案内、説明等とても分かりやすかった。 ・手続きが簡単。職員の対応が優しく嬉しい。 ・下見から丁寧に対応していただいた。 ・とても協力的に動いていただき、心強い。 ・応接も明るく心和む。 ・マイクの調節等、すぐに対応していただいた。 ・舞台パソコンの使用法を指導していただいた。 ・見回りをされていて良い。
<p>〈施設設備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく静かな部屋で研修することができた。 ・コンセント数が多く配置が良い。フリーWifiの速度が速く良い。(セミナールームでのオンライン研修) ・会議室が多く、立地が良い。 ・コロナ対策のための検温器の貸出等、配慮されていてとても良い。 ・空調、文具、カーテン等が充実していた。 ・静かで雰囲気も良い。 ・Web会議システムを利用したが、設備が整っていて良かった。LANがあり良かった。 ・掃除が行き届いており綺麗。 ・鳥取、米子、倉吉から集まるのに立地が良い。 ・料金も安く、広い部屋で安心して使うことが出来た。とても良い響きであった。(リハーサル室) ・素晴らしいピアノと音響が気に入っている。 ・会場の近くにトイレがあって便利。音漏れもしていない。 ・設備が整っており、使いやすい。(セミナールーム2)

9 指定管理者による自己点検

<p>【成果のあった取組み・積極的に取り組んだ事項】</p> <p>（利用者の安心・安全への取組と公平・公正な管理運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の安全管理と公平公正な管理運営に努め、利用者目線を第一としたサービスの向上に努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一層の感染症対策の強化を図った。（鳥取県文化振興財団新型コロナウイルス感染症対策行動計画の作成、職員のマスク着用、ドアノブ、手すり、机等の消毒、感染防止啓発のチラシ等館内掲示、ホームページによる周知、利用申込時の感染予防対策確認チェックシートの提出等。） また、倉吉未来中心は複合施設であるため、館内で感染者等が発生した場合の他施設との情報共有及び管理体制を整備した。 ・毎月1回の消防設備と避難誘導設備の自主点検、及び安全衛生委員会による定期点検等を行い、危険箇所を洗い出してその対策を講じた。 ・消防訓練を入居団体・委託業者を含め年2回実施し、火災発生時の初期消火・来館者の避難誘導・関係機関への通報体制を整えている。訓練の当日は消防署立ち会いによる改善点等の指導を受け、より円滑で的確な消防・防災体制の構築を図った。 ・地震発生に備え、緊急地震速報を受信した際の行動訓練を年2回実施し、全職員の防災意識を高めた。 ・設備の点検・予防保全に努め、中長期整備計画を基に必要な改修・設備の更新を県へ要望、或いは会館で修理しながら施設の維持管理を行った。 ・倉吉パークスクエア内の施設（倉吉未来中心、鳥取二十世紀紀記念館、鳥取県男女共同参画センター、美術館整備局、倉吉交流プラザ、市営温水プール、食彩館等）による「倉吉パークスクエア会議」を毎月開催して情報共有を図るとともに、駐車場混雑時の対応を各施設と連携・調整を図りながら安全管理を行った。 <p>（施設の魅力を最大限に活用する取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アトリウムに「中部1市4町文化・観光情報コーナー」を設置し、中部地域の魅力を発信した。 ・特徴的なアトリウムの空間を活用したコンサートや館内インスタレーション、アートギャラリー展を通して、施設の魅力発信と館内の賑わい創出を図った。 ・音響等の優れたすばらしいホールを来て体感していただく施設見学ツアーや2大コンサートピアノ演奏体験を実施した。 <p>（利用者の視点に立ったサービスの提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止のため、Wi-Fi等のインターネット環境下でのオンライン会議や研修会が増加しており、事前にインターネット接続テストを希望する利用者には柔軟に対応している。 ・手軽に映像設備による会議や研修会が行えるよう、プロジェクターとスクリーンを全セミナールーム（和室を除く）に常設した。 ・移動式音響反射板設置サービスを開始し、安全な設置と音響効果を高めるサービスを提供した。 <p>（効率的な施設運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者が「快適に安全」に過ごすことができる環境を提供することを第一とし、省エネルギー、省資源への取り組みとして、節電、節水等に配慮した施設の管理運営に努めた。 ・鳥取県版環境管理システム（TEAS）Ⅱ種の更新登録を行い、職員に対する環境配慮への意識啓発や、利用者へも節水や空調設定温度の協力を啓発した。 ・ホールの改修工事期間による休館及びLED化による消費電力削減が見込まれるため、契約電力を変更し経費節減を図った。 ・経年劣化による設備の不具合が増加しているが、修理部材を購入して職員自らが自前修理をすることにより、修繕費を抑える努力をした。 <p>（地域との連携、文化芸術拠点としての活動）</p> <p>倉吉未来中心のミッションである「人と人との交流促進及び地域の活性化」を達成するため、文化芸術の持つ力や管理施設の特徴を活かし、地域のこれからの活力ある“まちづくり”と心豊かな“ひとづくり”を目標とした「倉吉未来中心 未来つながるプロジェクト」及び文化振興財団主催事業、とりアート中部地区事務局業務（県移管事業）に取り組んだ。</p> <p>まず、「未来つながるプロジェクト」においては、新型コロナウイルス感染拡大のため、当初計画を見直さざるを得なかったが、WEBやSNSを通じた配信などの手法を取り入れ、柔軟な実施形態により出来る限りの企画を実施した。</p> <p>また、文化振興財団主催事業（中部開催）においては、同様に新型コロナウイルスの影響で公演の延期・中止に見舞われた一方、対策を講じながら実施した公演もあり、コロナ禍にあっても、県民に生の舞台芸術に触れる機会を提供することが出来た。</p> <p>さらに、とりアートにおいては、事務局として新型コロナ対策の各種ガイドラインや実例を示しながら、例年より規模縮小とはなったが、イベントの無事開催へと導くことができた。</p> <p>【「未来つながるプロジェクト」の主な取組】</p> <p>①令和2年度は、年数回の大型企画を核とした事業展開を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止せざるを得ない状況となった。しかし、このような時だからこそ文化施設として文化芸術の力を発信する必要性を感じ、当初計画を見直しながら、可能な限りの事業を展開した。そして、各種マニュアルやガイドラインの整備以降は、感染症対策を講じながら実際に会場で生の実演芸術に触れる機会の創出に務めた。</p> <p>②年度当初は、全国的な緊急事態宣言の発令や施設の臨時休館等で集客イベントの開催が困難となったことから、WEBやSNSを通じたアート情報の発信に努めた。具体的には、映像版バックステージツアーや地元活動者のパフォーマンスが視聴できる公式Youtubeチャンネルの開設や、倉吉未来中心をモチーフとした「ぬり絵」のダウンロードとそのWEB展覧会などを行った。</p> <p>また、会館公式インスタグラムのライブ配信機能を活用した「インスタライブ」にも取り組み、イベントの中止や自粛で活動機会を失っている地域の文化活動者に対して、発表の場の提供という形で活動を支援した。</p> <p>さらには、臨時休館期間を活用し、医療従事者へ感謝の意を伝える「倉吉未来中心ブルーライトアップ」を実施した。</p> <p>③コロナ禍での活動者支援として、中止となった吹奏楽コンクールの代替発表会として企画された「中部地区中学校・高等学校音楽発表会 ～音に希望を乗せて～」の開催をサポートした。これは、中部地区吹奏楽部顧問有志で企画された発表会であったが、倉吉未来中心は、活動者支援として設けている「イベント相談窓口」として受け付け、コロナ対策の助言や当日運営補助を通じてその開催をサポートし、無事開催へと繋げることができた。</p>

④コロナ対策のガイドラインやマニュアル整備後は、感染症対策を講じながら徐々に集客型の企画に切り替えて行き、コロナ禍にあっても、生の舞台芸術に触れる機会の提供に努めた。2月に開催した「体験EXPO WINTER」では、キッズコンサートを核に落語やダンス体験など、親子で楽しめる企画を充実させ、どの企画も定員満了となるほどの賑わいを見せた。また、3月には館所有のパイプオルガンを活用した「スプリングバロックコンサート」を開催した。演奏者として、国際的コンクールのオルガン部門で日本人初の第1位を獲得した世界的オルガン奏者の富田一樹氏や鳥取市出身のチェロ奏者である中嶋寄恵氏などを招き、対策を施した安心安全な会場で上質な音楽に触れる機会を提供した。

⑤福祉機関連携として開催している福祉施設等への訪問コンサート（アウトリーチ）については、コロナ禍に対応した方法や初めての施設での開催など、例年以上に工夫したものとなった。「児童養護施設・母子生活支援施設」向けコンサートでは、各施設にソーシャルディスタンスを保てる会場が無いことから、今回は倉吉未来中心（リハーサル室）を会場とし、施設では出来ない映像の演出等を取り入れ、充実した内容のコンサートとなった。また、「子ども食堂コンサート」では初めて郡部・琴浦町（旧赤碕町）へ出向き、すそ野の拡大に努めた。このように、コロナ禍にあっても環境や地域を問わず、特に子ども達がアートを身近に感じられる環境づくりを推進した。

⑥館内の賑わいの一環として実施している「みらいアートギャラリー」では、継続的に展示しているあいサポート・アート（障がい者アート）作品に加え、三朝町国際交流員が地域の何気ない日常風景を撮影した写真展を開催し、中部地域の魅力の発信に繋げた。また、障がい者アート団体がホールの大規模改修工事のため設置された防護壁をキャンパスとして制作したダイナミックなアート作品の展示も行い、大規模改修工事中にあっても館内の賑わいを創出した。同じく館内の賑わいの一環として実施している「館内インスタレーション・クリスマスイルミネーション」では、コロナ禍で体験型イベントが減少している子ども達を対象に参加型ワークショップを開催し、そこから完成したアート作品をイルミネーションとともに設置した。

・文化振興財団主催事業・中部開催分においても公演の中止・延期に見舞われたが、人気講師である神田伯山氏の独演会（10月）のみ開催することができた。この公演は、文化振興財団としても年度最初の大規模公演となったが、各種ガイドラインやマニュアルに沿った可能な限りの感染症対策を施し、無事公演を終えることができた。この公演がその後の主催公演においても感染症対策のモデルケースとなり、現在のところ一人の感染者も出していない。

・鳥取県総合芸術文化祭・トリアート中部地区委員会事務局として、事業の円滑な推進と実行委員への助言、サポートを行っているが、特にコロナ禍での開催となったため、事務局として新型コロナ対策の各種ガイドラインや実例を示し、例年より規模縮小とはなったが、とりアートの灯を絶やすことなくイベントの無事開催へと導くことができた。

〔現在、苦慮している事項〕 〔今後、改善・工夫したい事項・積極的に取り組みたい事項〕

〔現在、苦慮していること〕

・経年劣化による施設・設備等の改修が増加し、工事の日程調整に苦慮している。

・新型コロナウイルス感染拡大による利用キャンセルの影響は、施設利用料収入の減収のみならず、来館者の減少によりレストラン等のテナントや自動販売機の売上げにも多大な影響を及ぼした。令和2年度は、施設利用のキャンセル料やレストラン等の使用料等の県からの補填があり、赤字決算とはならなかったが、感染拡大の収束が見えない中で収入確保と経費節減のバランスのとり方や、常に変化する新型コロナウイルス感染対策への対応について苦慮している。

また、改修工事に伴う施設の一部休館も重なり、一部のテナントは通常の営業が困難となっている。

〔今後、改善・工夫したい事項・積極的に取り組みたい事項〕

・施設・設備等の改修工事が進捗中、利用者への影響が最低限となるよう工事計画を調整するとともに、県の中長期保全計画を基に、経年劣化の進行度合いによる計画の進捗調整や利用者の要望等をうかがいながら、今後の改修工事等に反映させていく。

・新型コロナウイルス感染拡大防止により集会形式の会議・研修会等が減少し、WEB会議が増加するなど施設の利用形態の変化への対応や、施設予約システムによるWEB予約やキャッシュレス決済の導入を進めるなど、世の中の動向に合わせた利用者対応を進める。

・利用者の安心・安全な利用を提供できるよう、あらゆる災害を想定したマニュアルの整備と行動訓練の推進を図る。

・文化振興財団としてアウトリーチを積極的に推進し、より深く地域へ文化芸術を拡げていく方針が示されたことを受け、倉吉未来中心としても中部地域全体を意識し、アウトリーチ・インリーチ（会館での企画実施）の両面で「未来つながるプロジェクト」を推進していく。特に地域の将来を担う子ども達へのアプローチを第一とし、豊かな心と感受性を育む基盤となる幼少期のアート体験の充実を目指し、未就学児を対象とした企画を重点的に行うことで心豊かなひとづくりを目指す。

・アウトリーチでは、中部地区4町との共催や町所有施設での開催などを通じて町との連携強化を図り、文化芸術を手法に広く地域活性化に努めていく。

・引き続き「イベント相談窓口」や「舞台技術支援」を通じて、会館利用者や地域文化活動者を支援し、地域文化の下支えと活性化に寄与していく。

・鳥取県立美術館開館の気運を盛り上げる地域と連携した取組や、鳥取短期大学と文化芸術をベースとした地域の活性化に繋げる取組を推進する。

10 施設所管課による業務点検

項 目	評 価	点 検 結 果
[施設設備の維持管理・緊急時の対応等] ○施設設備の保守管理・修繕 ○施設の保安警備、清掃等 ○事故の防止措置、緊急時の対応	4	○消防設備等の自主点検や、安全衛生委員会による定期点検等による危険個所の洗出しの他、消防署の立ち合いによる消防・避難誘導訓練、外部機関による改善指導等の受講、緊急地震速報受信時の行動訓練やエレベーター閉じ込め救出訓練等を実施し、近年多発する自然災害やそれらに起因し得る有事に備えた安全管理体制の構築に日頃努めている。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、職員のマスク着用、ドアノブ、手すり等の消毒、利用者への感染防止啓発のチラシの館内掲示、利用申込時の感染予防対策確認チェックシートの提出等、「鳥取県新型コロナウイルス感染症対策行動計画」等を基本とした取組により、継続した予防対策を講じている。 ○台風や大雨の時期に天井雨漏りの発生が頻発したが、適時適切に応急処置を施し、施設利用者等への影響を最小限にとどめる対応が行われている。
[施設の利用の許可、利用料の徴収等] ○利用の許可 ○適正管理に必要な利用者への措置命令 ○利用料金の徴収、減免の実施	3	○適切に対応されていると認められる。
[その他管理施設の管理に必要な業務] ○利用受付・案内 ○附属設備・備品の貸出し ○利用指導・操作	4	○利用者の視点に立った接遇や貸出機器の説明・設置協力等に取り組み、利用者から「親切な対応」、「丁寧な説明」等満足度の高い評価の声が多く寄せられている。 ○オンライン方式による会議や研修会等の利用ニーズが高まる中、インターネット接続テストへの対応や、プロジェクターとスクリーンの常設(セミナールーム)等を行い、利用者の視点に立った施設の利便性向上に取り組んでいる。 ○ホールの空き情報をHPやSNSで積極的に更新案内し、また、催事内容によっては開館時間外対応や臨時開館に応じるなど、利用者の利便性を考慮し柔軟に対応している。 ○舞台技術や設備に関する助言指導の他、新型コロナウイルス感染症対策等イベント実施に係る相談へ対応し、幅広い観点で利用者のトータルサポートに取組み、施設利用に係る安全安心と付加価値の向上に寄与している。
[利用者サービス] ○開館時間、休館日、利用料金等 ○利用者へのサービス提供・向上策 ○施設の利用促進 ○個人情報保護、情報公開 ○利用者意見の把握・対応	4	○コロナ禍における施設利用の可能性や文化芸術等の活動拠点としての役割について検討を重ね、施設利用者のニーズや利便性向上に寄り添った利用促進に取り組まれた。 ○特に、イベント開催に向けた舞台・客席の設置方法や新型コロナ対策等の相談窓口の設置等を通じ、利用者が安全安心な環境で効果的にイベント開催に取り組める体制づくりに、サービス面で様々な実施主体の側面支援に取り組まれた。 ○その他、御意見箱や施設利用アンケートを通じ利用者の要望や意見等を把握し、施設環境の改善向上に務めた。
[活性化事業の実施状況] ○実施内容	4	○「未来につながるプロジェクト」として、地域の多様な団体の参画によるアートを中心とするイベントや、施設の新たな利用形態を提案するイベントなど、以下の事業を実施し、想定を上回る来場があり、ミッション達成につながる成果を上げている。 ①複合型企画 子どもや保護者を対象にした鑑賞と体験を織り交ぜた複合型企画(体験EXIPOWinterいってみよう! やってみよう!)を開催し、誰もが気軽に文化芸術に親しむ機会と文化活動者の成果発表の機会を提供した。 ②みらい音楽祭 倉吉未来中心公式Instagramを活用した生配信「みらい音楽祭インスタライブ」を実施し、コロナ禍で発表の機会が少なくなった地元活動者支援を目的に発表の機会を提供した。(他、「調律師さんによるパイプオルガン解体・解説ショー」、「スプリングバロックコンサート」) ③福祉施設での訪問コンサート ホールなどでの舞台芸術鑑賞が困難で、文化芸術に触れる機会が少ない福祉施設等にアーティストを派遣する「施設訪問コンサート(児童養護施設、母子生活支援施設等)」を実施し、文化芸術に親しむ機会を提供するとともに、企画を通じてアーティストと施設・地域との交流を促進した。 ④みらいアートギャラリーの展示 とりアート2020中部地区事業で開催した「未来をえがこう! 絵画コンクール」の入賞作品展示等を行った。(他、「神戸からの風〜ころろのアート展〜」等) ○その他、県内全域を対象とした鑑賞型事業として「神田白山独演会」を開催した。
[収入支出の状況]	4	○適切な管理が行われている。新型コロナウイルス感染拡大防止と施設利用者の安全確保のため、県の要請等により臨時休館や開館時間の短縮する期間が生じた他、年間を通じ、感染拡大状況の変動により大規模イベントの取り止めや利用者数の大幅な減少が見込まれた中で、コロナ禍に対応した施設利用の可能性について検討を重ね、利用率向上に向けた施策と経費節減に取り組まれた。

〔職員の配置〕	3	○協定の内容どおり実施されており、適切な管理が行われている。
〔会計事務の状況〕 ○不適正事案や事故等の有無 ○業務報告書(月次)における内部検査結果 ○利用料金等に係る適正な会計事務 (利用券、利用券管理簿の管理など) ○必要な規程類の整備 (会計規程、協定書等で整備が定められている規程など)	3	○適切に対応されているものと認められる。
〔関係法令の遵守状況〕 ○関係法令に係る行政指導等の有無等 ・労働関係法令 (労働基準、労働安全、障がい者雇用等) ・環境関連法令 (大気、水質、振動、廃棄物等) ・その他の法令 ○県内発注(鳥取県産業振興条例)	3	○関係法令に沿って、適切に対応されているものと認められる。 ○来館者への快適な施設環境の提供を第一としながら、省エネルギーや省資源への取り組みを進め、鳥取県版環境管理システムⅡ種の更新登録を行うなど、環境配慮への意識醸成・啓発に取り組んでいる。
〔県の施策への協力〕 ○障がい者就労施設への発注	3	○飲食事業の運営(アトリウム喫茶)に係る施設の部分使用契約を障がい者福祉団体と締結するとともに、必要に応じ、飲料品の発注等を行っている。
総括	3.5	○新型コロナウイルス感染拡大に伴い、施設の運営や利用上の様々な制約が余儀なくされる中、安全安心に資するイベント等の開催方法や文化芸術事業の継続と発展に向けて検討を重ね、地域の文化活動拠点として、その役割と機能維持・向上に取り組まれた。 ○引き続き、地域の文化芸術拠点としての機能を果たし、地域の活性化に取り組まれない。

- 《評価指標》5：協定書の内容について高レベルで実施されており、また、計画・目標を上回る実績があり、優れた管理運営がなされている。
- 4：協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。
- 3：おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
- 2：協定書の内容に対して不適切な事項が認められ、また、計画・目標を達成していない。
- 1：協定書の内容に対して重大な違反事項が認められる、指摘済みの不適切事項が放置されている、計画・目標、前年度実績を大きく下回っているなど、大いに改善を要する。
- ※総括欄は、各項目の平均の小数点以下第2位を四捨五入した数値を基本に、総合的に評価する。